

実践報告 札幌市立清田緑小学校

(1) 研究内容

研究課題：札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」において、アイヌ文化・歴史やアイヌ民族の人権などを展示資料の見学をしたり、アイヌの方から直接学んだりする学習

- アイヌ民族の文化に直接触れ、アイヌ民族の歴史や人権について理解することにより、互いにかけてあげのない人間としての尊厳を認め合い、一人一人が自他の生命を尊びあらゆる偏見や差別をなくし、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

(2) 実践の内容

【「札幌市アイヌ文化交流センター『サッポロピリカコタン』の活用」について】

○ねらい

- ・ アイヌ民族の方から直接話を聞いたあとで、歌や踊り、遊びを体験したり、施設や展示物などを見学したりすることで、アイヌ文化についての理解を深める。

○学習内容

- ① アイヌ民族の方から歴史や文化、生活などのお話を聞く。（アイヌ民族の自然観、アイヌ語の意味に関すること、衣装、その他）
- ② 歌と楽器の演奏鑑賞・舞踊の観賞や体験をする。
- ③ アイヌ民族の子どもたちの遊びを体験する。（輪投げ、縄とび など）
- ④ チセ（家）・丸木舟野外展示物、館内展示室等の施設見学をする。
- ⑤ 展示室を見学して、各自調べ学習をする。
- ⑥ 体験したり調べてきたりしたことをもとにして、新聞にまとめる。
- ⑦ 本学習を通して、様々な人との関わりの大切さを考える。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 子どもたちの学習にとって本物と触れ合うことのできる機会は何よりも貴重である。きれいに整えられた「サッポロピリカコタン」の施設、展示物、そして直接かかわっていただいたアイヌ民族の方々は、程よい緊張感の中、子どもたちに本物の歴史と文化を伝えてくれた。
- ・ 言葉や服装、食料などからアイヌの方々の自然を生かす知恵について考えたり、歌や楽器の演奏、踊りを体験したりするなど、教室での学習では得られないもので、子どもたちの心に深く残った。また、遊びの体験を通して、自分たちの遊びとの共通点を見だし、親しみを感じることができた。

- ・ 屋外では家や舟など実物の見学ができ、アイヌ文化の理解を深めることにつながった。

②課題

- ・ 本校4年生は、児童数 132 名、4学級という規模である。前半はホールでの説明と踊りの体験、そして後半は半分ずつに分かれての遊び体験と施設見学という流れで行われた。その際に、後ろの列の子の見学は慌ただしくなってしまった。大規模校であるがための感想ではあるが、少人数での活動、一人一人の体験が保障されるプログラムを充実させていくことが望まれる。

③提言「人権教育のすすめ」

- ・ 今回の見学で感じたのは、アイヌ民族の方々についてより理解するには、実際に会うことが必要だということである。アイヌ民族の方々が言葉を奪われた事実等は、アイヌ民族の方々から直接聞くことによって、子どもたちはより切実に感じ取ることができると思う。

